

岡山の博物館

岡山県博物館協議会会報 No.44 平成25年7月

CONTENTS

- P1 大佐山田方谷記念館「今に生かそう方谷の心しせいそくだつ—至誠惻怛—」
P2 館長随想「岡山の宝、林原美術館」(財団法人 林原美術館 館長 谷一 尚)
P3 新規加盟館紹介(猪風来美術館・新見市法曾陶芸館/狸庵文庫美術館)
P4~P5 ... 平成25年度 総会報告/記念講演会
P6 平成24年度 第2回研修会「異種館の交流事業の可能性をさぐる」
P7 加盟館からの便り(岡山県立博物館)
P8 気になる情報コーナー(美作国建国1300年記念事業実行委員会)

わが館のイチ押し

大佐山田方谷記念館「今に生かそう方谷の心しせいそくだつ—至誠惻怛—」

幕末から明治を陽明学者として、財政破綻に陥った備中松山藩を見事に立て直した稀有な改革政治家として、そして偉大な教育者として力強く生き抜き、備中聖人と呼ばれた山田方谷(1805-1877)は、明治3年(1870)、母の郷里である現新見市大佐小阪部に移寓し、かつての水谷勝能の陣屋「方谷園(新見市指定重要文化財)」に小阪部塾を開いて子弟教育に当たるとともに、母方の菩提寺である大佐小南の金剛寺境内に継志祠堂「方谷庵(岡山県指定史跡)」を建て、外祖母の霊を弔って晩年を過ごしました。

「大佐山田方谷記念館」は、方谷の偉業を讃え、方谷の生き方にふさわしい「誠実・勤勉・清貧・謙譲などの心」や方谷終焉の地としてその名を永く後世に伝えるため、方谷庵の近くに平成16年3月に開館しました。

館内には方谷のブロンズ座像、方谷の業績や年譜の説明パネル、方谷園にある勝海舟題字・三島中洲撰文による「方谷山田先生遺蹟碑」の拓本(実物大写真)、方谷が書いたといわれる大政奉還上奏文草案の複製、4歳の時に書いた「つる」の額字(大佐神社所蔵)、これまで門外不出とされていた方谷の遺髪・遺愛の盃・手筈などの展示やビデオコーナーがあります。

今年、開館10周年になります。方谷を主人公にしたNHK大河ドラマ化を目指す署名運動もあり、地元岡山はもちろん、ほぼ全国から熱心な方谷愛好者が来館されています。小さな記念館ですが「方谷を学ぶ会」の開催など魅力アップに努め、真心のある対応に努めますのでぜひ一度ご来館ください。



木造瓦葺き・大屋根造りの瀟洒な記念館(外観)



郷土の偉人「方谷」を学習する地元小学生たち(研修室)



題字が勝海舟書の遺蹟碑拓本(展示室)

館長随想

「岡山の宝、林原美術館」

財団法人 林原美術館 館長
谷一尚



館長就任の初日、本2013年4月1日と3日に、かつて京都から移築した当館庭園内の茶室で茶会を催しました。3日の床の間には、8代将軍徳川吉宗直筆の「鷹之図」(写真1)を掛けました。3代岡山藩主池田継政が左近衛権少将に昇進した祝いに、1747(延享4)年11月吉宗から継政に下賜されたものです。当館の場所は藩主の応接所である対面所跡、門は、現大本組本社の東側のあたりにあった支藩生坂藩岡山屋敷向屋敷の長屋門(写真2)、建物は、県庁や天神山文化プラザ(旧岡山県総合文化センター)と同じく、世界的建築家ル・コルビュジエの弟子、前川國男の設計、来2014年10月1日には開館50周年を迎えます。その中庭の見事さは目を見張るばかりですが、特に春と秋には、この中庭を見渡せる大きな窓ガラスに、鳥がぶつかり玉砕することが何度もあります。日本野鳥の会の有力会員でもある大塚利昭オリエント美術館長に相談したところ、ガラスに鷹など猛禽のシールを貼ると近づかないとのこと。名案ですが、シールを貼ると折角の建物内部からの庭の眺めが損なわれるとの意見もあり、思案の結果、上述の吉宗の鷹を、恩師金谷哲郎先生に実寸大の彫刻でつくっていただいて、窓の外側に置くことにしました。本日試作品を先生が持ってこられ、実際に置いてみましたが、なかなかの出来で完成が楽しみです。

さて、「名物大包平」という名の国宝の太刀をご存じでしょうか。備前岡山藩主池田忠継の父で、関が原の戦功により、播磨姫路に52万石を得、一族の所領を合わせ92万石となり西国の将軍と呼ばれた名将、しかも戦国武将

一の高い鑑識眼を備えていたといわれる池田輝政の最も愛した太刀として有名な、名実共に日本一の名刀です。

輝政の孫で実質的初代岡山藩主光政の日記にも、輝政の具足始めと称する儀式には、着用の甲冑とこの大包平を飾ることが記されています。この日記は光政自筆で21冊が現存。1637(寛永14)年10月8日から隠居3年前の1669(寛文9)年2月2日まで、31年余に亘って書き続けられており、その内容は、幕府や他大名、池田一門との交渉や参勤交代、年中行事、冠婚葬祭、家臣への教諭など多岐に及んでいて、近世前期の一級の名刀史料となっています。

この名刀大包平、長く岡山の池田家に伝来し、戦後もしばらくは現在当館の収蔵庫となっている池田家の蔵に存在したのです。しかし、さしもの林原一郎氏も、これだけの名刀は入手困難であったようで、結局国の買い上げとなり、東京国立博物館に移ってしまいました。江戸時代以来300年以上存在した岡山から、この名刀が去ってしまったのは、返す返すも無念の極ですが、地団太踏んで悔しがっても後の祭り、もう取り返しはつきません。

このたび図らずも、国宝3件、国指定重要文化財26件を擁し、県内では最も指定物件の多い、まさに岡山の宝、林原美術館の館長を拝命することとなりました。この貴重な財産の宝庫を、大包平のように岡山から外に出すことのないよう、心して勤めてまいりますので、今後とも皆様の温かいご支援ご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



8代将軍徳川吉宗直筆「鷹之図」(財林原美術館蔵)



支藩生坂藩岡山屋敷向屋敷の長屋門(現林原美術館正門)

新規加盟館紹介

猪風来美術館(新見市法曾陶芸館)



猪風来美術館は、現代縄文芸術の作品300点以上を常設展示する美術館として全国から注目されています。館内には 縄文の美の復活者であり縄文造形の第一人者である猪風来の代表的縄文野焼き作品(生命のシリーズや羅森万象シリーズ他)・陶オブジェ・絵画などが展示されています。大自然の生命と魂をデザインしたこれらの縄文スパイラルは、21世紀の新たな美です。また縄文の心と技を体感する陶芸教室が行なわれ、年2回(春と秋)「縄文野焼き祭り」を開催しています。



【所在地】〒719-2552 岡山県新見市法曾609
【TEL/FAX】0867-75-2444
【E-mail】mail@ifurai.jp
【URL】http://www.ifurai.jp/
【観覧料】[常設展]一般 400(350)円
高校生 200(150)円
中学生以下無料

※()内は団体料金
【開館時間】9:30~17:00
【休館日】[通常]毎週月曜日(休日の場合はその翌日)
[冬期(12~2月)]毎週月・火曜日
年末年始(12/27~1/4)

【交通案内】岡山から車で約90分
岡山空港から車で約70分
賀陽ICから車で約45分
新見ICから車で約30分
JR井倉駅からタクシーで約15分
JR方谷駅からタクシーで約10分

狸庵文庫美術館



収蔵美術品の展示、地域の芸術文化の交流拠点として平成24年に開館。展示品は、シュールレアリスムの作品、茶道具、書画など、千点以上。ギャラリートークや特別企画展も開催しています。

1階のイベントホールは、地域の方々の趣味の発表や交流の場として利用できます。

2階は美術品の展示で、一般財団法人 河田病院の収蔵美術品を公開し、中でも第3展示室の茶道具の展示は、茶事に使用した品々をテーマに沿って展示。

3階は貸し会場(ホールと会議室、調理室)、4階は狸休堂という茶室で、茶道教室も開催しています。



【所在地】〒700-0031 岡山県岡山市北区富町2-13-14
【TEL】086-253-2710
【FAX】086-253-2810
【E-mail】rb-bijutsukan@kawada.or.jp
【URL】http://rianbunko.com/
【観覧料】一般500円、小中学生200円 ※75歳以上無料
【開館時間】イベントホール 10:00~17:00
常設展示室 10:00~17:00(入館は16時まで)
貸室 10:00~21:00

【休館日】月・火曜日(祝日は開館)
年末年始(12月28日~1月4日)
展示替期間(この他臨時休館有)

【交通案内】徒歩/岡山駅西口より15分(タクシーで3分)
車/山陽自動車道岡山I.C.まで
大阪(吹田I.C.)から約120分
広島(広島I.C.)から約120分
米子(米子I.C.)から約90分
高知(高知I.C.)から約120分
岡山I.C.から約20分



本年度総会が5月17日(金)、岡山県立美術館において開催されました。加盟館79館中60館(委任状21館)、賛助会員を含む55名が参加しました。

会長挨拶

第22回総会を催したいと思えます。発足時は59館から出発している博物館協議会ですが、今回2館が新規加盟となり、計79館という大きな団体になっております。他県でこうした形でやっているところは無いだろうし、あったとしてもこれほど大きくないのではなかろうかと思われるほど、随分たくさん博物館、美術館が参加している協議会だと思っております。私も担当館として事務局をやっておりますが、美術館の催しと平行して行っていると、どうしても出不足で皆さまに手が回っていないかもしれません。しかし、是非ともこれを活用して皆さま方がお互いの交流だけではなく実質的なことが出来るようになっていけばより良いと思っております。そのためにも、どうか皆さまの方でもいろんなご意見があれば是非遠慮無く言っていただきたいです。この協議会を実質的なものにしていければとても良いと思っております。いずれにしろ本日は式次第に従って平成25年度の総会を開催したと思えます。どうか最後までよろしく願いいたします。

議事

- (1)「新規加盟館」について
 - ・「猪風来美術館」
 - ・「狸庵文庫美術館」
- (2)「平成24年度事業報告」について
- (3)「平成24年度収支決算書」について
- (4)「役員の改選」について
- (5)「平成25年度事業計画(案)」について
- (6)「収支予算書(案)」について
- (7)今後の事業運営について
- (8)各館からの提出議題について

各館からは特になし。

総会終了後15:00より「一学芸員としてトライした新館建設への軌跡」と題して、津山洋学資料館前館長・洋学史学会理事、下山純正氏を講師に記念講演会を開催した。

平成25年度事業計画について

■研修会

- 第1回目 文化財取扱い研修(平成25年9月頃開催予定)

実技指導：美術品取扱専門業者を招き実施する。
- 第2回 伝えるための工夫(平成26年2月頃開催予定)
 - ・キャラクターやマークなどについて
 - ・ギャラリートークのスキルアップ

■普及広報

- ①新版加盟館紹介冊子の作成
- ②会報「岡山の博物館」の発行。(No.44・No.45)

A4版 カラー 8ページ
- ③会員館、賛助会員に対する優待券の発行

「一学芸員としてトライした新館建設への軌跡」

講師 下山 純正 氏 (洋学史学会理事・前津山洋学資料館館長)



景気の低迷や予算削減、指定管理者制度の導入など、文化行政は受難の時代である。このような状況の中で、津山市は津山洋学資料館(以下「資料館」)の新館建設に踏み切った。そういうことで、その経緯について話してみたい。

旧館の建設

旧資料館は、昭和48年まで銀行として使われ、銀行の移転に伴い、市が貰い受けた建物であった。昭和50年に箕作阮甫旧宅が国指定史跡になったのを契機に、その建物に改装を加え、郷土館から洋学関係資料600点を移管して、昭和53年3月にオープンした。

当時、「洋学」をコンセプトにした資料館は珍しかったのか、開館年から専門家が多く来館。そんなこともあって、翌年から私は学芸員として勤務することになった。ところが、大正期の名建築の跡利用は何をやるにも問題だらけで、暗くて狭隘、さらに夏は暑く冬は寒い。これらの課題を一挙に解決するには新館建設しかないと考えようになり、実現するための方法を模索するようになる。

友の会の創設

そこで、昭和56年に外郭団体である津山洋学資料館友の会(以下「友の会」)を発足させた。「楽しく学ぶ」をモットーに、研修バス旅行や講座、機関誌の発行、史跡見学会などを開催。それはやがて「オランダ料理の夕べ」や「再現ロシア料理の夕べ」「オランダ古楽器演奏会」などのソフト事業へと発展し好評を得た。こうした事業を通じてオランダ総領事館や大使館との交流が始まり、大使や総領事の津山市公式訪問にもつながっていく。当初50名程度だった会員も、今では約400名に増加した。

洋学関連史跡の整備・洋学者の銅像整備

次に、洋学関連史跡の整備に力を入れた。史跡を整備するのは本来資料館の仕事ではないが、「宇田川家三代墓所移転事業」「箕作家墓所整備事業」、京都大学構内の

「久原躬弦銅像修復事業」や「仁木永祐顕彰碑整備事業」などを、友の会や地元町内からなる実行委員会を組織しては整備を手掛けた。

また、各ライオンズクラブに働きかけて、「箕作阮甫胸像」「津山洋学五峰像」など8体の先覚胸像を製作してきた。それらは市内に点在していたが、今は新館の前庭に移設している。

市の取り組み

津山市の主体事業として実施したもので一番記憶に残るのは、津山市と津和野町(鳥根県)が協力して実施した「津田真道・西周顕彰事業」である。幕末のオランダ留学生二人を顕彰するため、ライデン市に向いて、メモリアルプレートを設置するという一大イベントだった。このことは、のちに「世界十字路会議」が津山市で開催された際、ライデン市長を招へいすることにもつながった。この事業の実施は、市の認識をさらに深める結果となり、新館建設のゆくえに大きく影響するのであった。

学会の誘致を進める

一方、研究機関の活動として学会の誘致にも努めてきた。「洋学史学会」「医学史学会」「化学史学会」などの関係学会を津山市に誘致し、長年にわたってサポートしてきた。それは、平素から資料館を訪れる専門家とのネットワークを発展させたものであった。

所蔵資料を増やせ

開館時の所蔵資料は600点。資料館を標榜するからには、所蔵資料を増やさなければならない。しかし、予算は乏しく購入だけではままならない。そこで、地域の「蘭学・洋学志向者」を洗い出し丹念に調査するとともに、県外在住の宇田川・箕作家後裔と交流を図った。これを長年ひたむきに続けたことが、のちに寄託や寄贈につながっていった。今では所蔵資料は9,300点を数える。

おわりに

こうした30数年の歳月をかけた「洋学顕彰」の地道な取り組みが、次第に市民に浸透したことで、大きな岩が動き新館は建設された。今、博物館・美術館は厳しい現状下での運営を強いられている。施設を動かすのは人である。専門職が育つには最低10年はかかる。学芸員の人間性・人脈・努力・研究があってこそ、博物館本来の運営はなされるもの。長い目で、そういう人たちを育てていくという視点を、行政のトップはぜひ持って欲しい。

「異種館の交流事業の可能性をさぐる」

日時：平成25年3月21日（木）10：00～16：00

会場：岡山シティミュージアム

講師：清水 文美氏（こども☆ひかりプロジェクト代表）

今回は「異種館の交流事業の可能性をさぐる」をテーマに3部構成で研修会を開催しました。第1部では清水氏による基調講演「ミュージアムをつなぐ」、第2部では異種館交流事業の事例として藤井茂樹氏（新見美術館）による「恐竜の化石展、昆虫展、刀剣展などの取り組み」、野村英子氏（勝央美術文学館）による「貝や化石の研究発表展について」、鬼本佳代子氏（福岡市美術館）による「大原美術館と倉敷市立自然史博物館の連携事業」についての報告を行い、第3部では鬼本氏をコーディネーターに、清水氏と事例報告者によるパネルディスカッションを行いました。以下、研修会に参加しての感想をお寄せいただいています。



※詳細な報告書は、次回会報に同封してお送りします。

研修に参加しての感想

この度の研修テーマ「異種館の交流事業の可能性をさぐる」は、児島虎次郎絵画・古代エジプトコレクション・化石標本を展示の柱とする異種複合体ともいえる当館にとって大変興味深く、活動のヒントをいただける機会として参加させていただきました。

基調講演でのこども☆ひかりプロジェクト代表 清水文美さんのお話は、ミュージアムの所蔵品は誰のために、何のためにあるのかという、我々にとって根源的な問いを投げかけてくださったように思いました。ミュージアム（博物館）の作品・資料を「こどもたちのために」という目標のもと、ジャンルの垣根なくフルに活用されているご様子は、本来のミュージアムの機能を現場の私達学芸員に実践して示してくれているようにも思われました。

また鬼本佳代子さんの倉敷市立自然史博物館との連携事業は、絵画を美術史的観点から解き放つ興味深い試みでした。モネやピカソそれぞれの画家の思考が絵の中にあらわれていることを示す植物学的な観点は、画家像の再発見につながるだけでなく、他の絵を見る上でも新しい視点を与える鑑賞のポイントになります。これらのことは今後の企画に大いに参考になりました。

新見美術館、勝央美術文学館、倉敷市立自然史博物館の他館との活発な交流事例もお聞き出来て、非常に実りの多い研修会と実感しましたが、何よりもこうした機会に県内の同業の皆様と実際お目にかかって言葉を交わせる、こ

の時間こそがとても貴重な交流の場なのだと改めて感じています。

もともと化石・絵画・考古資料を所蔵する当館では、異種館との交流が館運営には欠かせないものとなっており、これまでも岡山市立オリエント美術館、林原自然科学博物館そして研究機関では岡山大学や岡山県立大学、吉備国際大学などとも連携を深めながら活動を展開してまいりました。他館の学芸員や研究者の方々がどのような価値観でモノを見、伝えようとしているのかを、間近で感じられるのも連携事業の醍醐味と言えるでしょう。

この夏成羽美術館では、林原自然科学博物館と岡山大学理学部と連携し、「KASEKI-カセキはキセキの贈りもの」という企画展を開催します。三者が集うミーティングでは、標本の見せ方、解説の言い回しなどを細かく検討し、全体をとおしてユーザーが化石そのものを面白がる目を養う構成となっているかを確認します。また恐竜、昆虫などいろいろな種類に加えて、産出する地域や時代の異なる化石を陳列する中で、改めて「成羽の化石」の意味や重要性を伝えられる展示を計画しています。3月の研修会で再確認させていただいた異種館交流のメリットや可能性を加盟館の皆様を示せるような展示会に仕上げたいと考えておりますので是非ご来場ください。

高梁市成羽美術館 渡辺 浩美

加盟館からの便り

岡山県立博物館

本物志向

「みなさんは岡山県立博物館を知っていますか？」これは、私の今年度の第1回目の授業での一コマである。生徒の答えは・・・。「後樂園は知っていますか？」ようやく、ちらほらと手があがってくる。私の現在の勤務校は岡山市から30キロ離れた児島。仕方がないと思ながらも博物館に勤務していたものとしては、いささかの寂しさを感じる。

昨年度の小・中・高校生の学校団体の入館者数は、出前授業を含みおよそ6000人。岡山県の小・中・高校生の人数がおおよそ22万人であるから、3%にも満たない。100人いたら97人以上は来っていない計算になる。（この計算は1年だけのことであるので実際はもう少し多いはずだが・・・）

ある学芸員さんは小学生を前にして、必ず言うことがある。「博物館は本物と出会えるところです。動物園や水族館と同じなんです。動物園や水族館で本物を見れば、動物の鳴き声、臭い、魚の泳ぎ方など、実際に見たり、聞いたり、嗅いだりできると思います。本物を見て、みなさんも考えたり感じたりしてみてください。」私はその「本物」という言葉、「動物園・水族館」と同じという言葉聞いて、「なるほどそういうことなのか。こう言えば、子供たちもよくわかるし、本物を見るということは何物にも代え難いものだ。」ということを改めて感じた。

小学校の昔のくらしの出前授業に何度か行かせていただいた。その時も本物をみる子供達の目は輝いていた。「これは何に使うのかなあ。」「これは見たこ

とあるなあ。」「これは授業でやったよ。」本物を見て、触って、思い思いの発言をしていた。教科書で見るとよりずっと印象深かっただろう。授業後に手紙を送っていただいたこともしばしばあったが、いずれも熱心に書かれてあり、担当したものとしてはうれしい限りであった。

最近の子供達はあらゆる場面において本物に触れる機会が少ないと言われている。博物館や美術館に自ら足を運んで欲しいと思うがこれはなかなか容易なことではない。だから、まず、先生方に本物に触れていただき、いかにそれが教育効果の高いことであるかを実感していただきたいと思う。そして、次は自校の児童・生徒を遠足や校外行事等で連れてきていただきたい。遠足や校外行事で博物館や美術館にやってきて、それがきっかけで二度、三度と来館し、そして、本物を感じて、児童・生徒自身が本物の大人になるきっかけとなったらと思っている。

岡山県立倉敷鷺羽高等学校 教諭 國政 信弘



懐かしく新しい未来へ還ろう 美作国建国1300年記念事業の紹介

—美作国建国1300年記念事業実行委員会—



みまさかのくに 美作国建国1300年

和銅6(713)年より始まる美作国は、2013年4月3日に建国1300年を迎えました!

岡山県北10市町村(津山市・真庭市・美作市・新庄村・鏡野町・勝央町・奈義町・西粟倉村・久米南町・美咲町)からなる美作国は、畿内と出雲を結ぶ交通の要衝として、また鉄の産地として古くから栄えてきた地域です。

その歴史は、平安時代に編纂された国史『続日本紀』に、和銅6(713)年4月3日に備前国から北部6郡が分かれて誕生したとあり、わが国の古代史上において、建国の由来が史料で確認できる数少ない地域となっています。また、春の桜、夏の滝、秋の紅葉、冬の雪景色など豊かな自然や、美作三湯をはじめとした個性溢れる多くの温泉に恵まれ、古から脈々と築き上げられた歴史や文化が今も息づいています。

そして、2013年は美作国の建国から数えて1300年に当たり、「懐かしく新しい未来へ還ろう」をテーマに、地域の10市町村で記念事業を展開しています。

主な事業としては、地元奈義町出身の漫画家、岸本斉史氏原作の人気アニメ「NARUTO—ナルト—疾風伝」のキャラクターをラッピングした列車の運行や、「NARUTO」の世界観を求めて、スマートフォンARアプリやシールラリー等で年間を通じ美作国を巡っていただく「NARUTO—ナルト—」建国千三百年の絆 in 美作国が開催中です。

また、歴史を訪ねる街歩きや地域内の観どころ、湯どころ、食べどころを割引などの特典が満載したスタンプラリーパスポートで美作国内を巡って制覇する「美作国おもしろラリー」では、美作国の各エリアの魅力を探訪しながら、スタンプを集めて応募すると抽選で、総額300万円分の豪華景品が当たるといふ楽しみも魅力です。

9月からは、地元美作市在住の小説家「あさのあつこ氏」書き下ろしの、美作国を舞台としたミステリーイベント「あさのあつこ PRESENTS 探偵たちへの挑戦状 美作国 The ミステリー」が開催され、小説の内容をヒントに、犯人の手掛かりを探すため、美作地域を巡り謎解きを楽しんでいただけます。

この他にも、美作国では建国1300年を記念して、1年間を通じて、ワクワクする関連イベントが地域内各地で続々開催されます。郷土芸能や民話も多く残っている美作国でしか体験できない交流型イベントを通して、五感で楽しんでいただける岡山県北、美作国に是非お越しください。

連絡先

美作国建国1300年記念事業実行委員会

〒708-0052 岡山県津山市田町37-5

TEL.0868-35-3434 E-mail info@mimasaka1300.org

http://www.mimasaka1300.org/



NARUTO—ナルト—列車 ©岸本斉史 スコット/集英社・テレビ東京・ひえろ



大原宿の本陣前を行く



大原宿の説明に耳を傾ける参加者たち

賛助会員企業・団体一覧(平成25年5月17日現在)

(株)イーオン	全日信販(株)
(株)岩井工業所	タカヤ(株)
医療法人えんさこ医院	(株)田中商会
(株)大手饅頭伊部屋	(株)中国銀行
(株)大本組	中国建設工業(株)
岡崎共同(株)	東洋砕石工業(株)
(株)岡山医学検査センター	(株)マト銀行
岡山ガス(株)	トヨタカラー岡山(株)
公益財団法人岡山県郷土文化財団	(株)トンボ
岡山市農業協同組合	(株)ナイカイアーキツ
岡山大鶴薬品(株)	内海プラント(株)
(株)岡山臨港	鳴本石材(株)
(株)菅田	日本運通(株)岡山支店
(株)キャリアプランニング	峰谷工業(株)
坂本工業(株)	(株)林原
(株)佐野組	備前信用金庫
三友不動産(株)	日生運輸(株)
山陽映画(株)	(株)フジワラテクノアート
(株)サンラヴィアン	フルハーブ岡山(株)
シャープタカヤ電子工業(株)	(株)ベネッセホールディングス
(株)成通	両備ホールディングス(株)

編集後記

会報44号をお届けします。今年度も皆さまのご協力のもと、無事に総会を終えることが出来ました。総会後の懇親会では食事を共にしつつ、各館の情報交換を行ったりと有意義な時間が過ごせたのではないのでしょうか。当協議会の事業である記念講演会や研修会の内容をお役立ていただくのは勿論ですが、この機会に館どうし、職員どうしの交流を広げていけたらと思います。

(岡山県博物館協議会 事務局員 大山 真季)

岡山県博物館協議会会報

岡山の博物館

No.44 平成25年7月発行

編集・発行 岡山県博物館協議会

会長 鍵岡 正謹

事務局

〒700-0814 岡山市北区天神町8-48

岡山県立美術館内

TEL 086-225-4800 FAX 086-224-0648